

ツナガリ

～社会と地域のニーズに合った人材を育成する～

① 大学の役割

所属大学の地域毎に意見の偏りはあったが、大学の役割について話し合った結果、「地域」と「グローバル」がキーワードとして挙げられた。

以下が具体的に上がった項目

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・人材育成（主体性を持った人材育成、社会に出るための行動力をつける）・キャリア教育 ・地域創生 ・地域活性化の拠点・地域の問題を行政や企業と一緒に解決する |
|---|

「地域」と「グローバル」についてその後議論を進めていたが、事務局の助言を受けて、もう一度大学の役割について再考することになった。最終的に「実社会で活躍できる人材育成」と「地域への貢献」をこの場では大学の役割として話し合いを進めた。

では、以上の役割を担うために大学が出来る事を検討した。地域によって社会から求められていることの違いや、大学の規模、大学によって求められている人物像に違いがあるので一律の結論は得なかったが、各大学共通していたのは「組織の中で周りの人と協力し、また自主的に行動でき、何らかの課題を見つけ、その課題を解決する能力」を身に付けさせることが重要であるという事だった。そして、この能力を身に付けさせる為に大学が出来る事は「成長できる機会の提供」と結論付けた。

② 大学の現状

「成長できる機会の提供」が重要だと結論付けたが、現状学生には以下 2 パターンいると考えられる。

1 パターン目「自ら成長の機会を作り積極的に挑戦をする学生」

→各大学一定数いる→自ら成長する→大学のサポートはいらない

2 パターン目「自分の範囲内でしか行動しない学生（できない学生）」

→少子高齢化や大学全入時代を迎えて、頑張らなくても大学に入学できる、入りたい大学ではなく、入れる大学に入学する

→目的意識のない（希薄な）学生が増え、なんとなく大学生をやっている

→大学のサポート「成長できる機会の提供」が必要

③ 解決策の検討

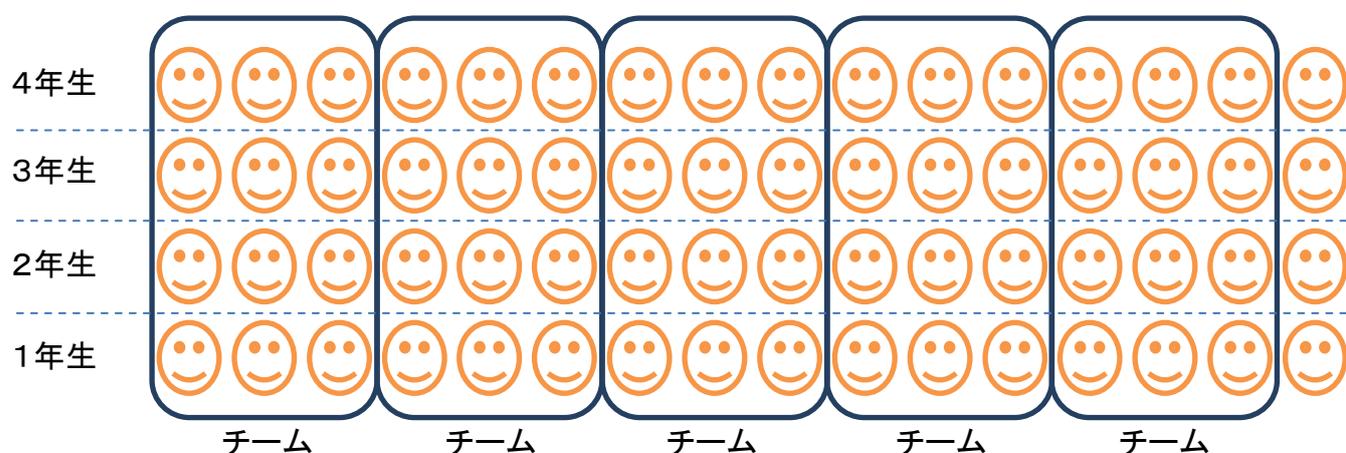
「成長できる機会の提供」を行う為に「ツナガリ」という仕組みの構築を提案する。1年生から4年生まですべての学年を縦断して少人数のチームを作る。そのチームで地域活動への参加やボランティア等、どんなことでもかまわないのでチーム毎で考えた課題に取り組む。

チームで様々な課題を解決する経験を通して、「組織の中で周りの人と協力し、また自主的に行動でき、何らかの課題を見つけ、その課題を解決する能力」を獲得する。学年を跨いでチームを形成している為、上級生が下級生をフォローすることも可能。チームへの所属意識や居場所の提供によって退学者を減少させる。また、下級生が上級生と関わりを持つ機会が増加する為、就職活動について具体的なイメージを1年生から意識させる事ができる。

このチームをポータルサイトやSNSのICTを活用してつなぎ、過去の活動状況の蓄積や職員と生徒、生徒間のコミュニケーションの促進を図る。

職員の役割としては、1チーム1人担当を決めてオリエンテーションの実施やポータルサイトにある報告やSNSを適宜確認する。必要があればアドバイスを行う。

「ツナガリ」イメージ図



④ 大学のイノベーションの提案

社会という人の集合体で活躍できる人材を育成する為に、学生が学生に対してお互いに良い影響を与えられるような「ツナガリ」という仕組みを提案したい。

「ツナガリ」という仕組みが構築される事によって、以下の部分が改善される。

- ・低学年から上級生と関わりを持つことによって、就職活動等の将来への意識付けが早期にできる。早期の意識付けにより就職活動の準備や資格取得等、夢の達成に向けて社会から求められている準備が可能になる。
- ・大学全入時代を迎えなんとなく大学に入学した目的意識が希薄な学生に対して、

大学内での居場所と目的を与える事が出来る。グループには1年生の4月に強制的に組み込まれ、役割も与えられる為、学生同士のサポートによって、退学者が減らせる。

以 上